

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」（マタイ28：18～20）

今日の箇所、いわゆるイエス様の「大宣教命令」と言われる箇所です。この御言葉により、イエス様の弟子たちは全世界に出てゆきました。そして今に至るまで、キリスト者たちは世界に出てゆきます。この御言葉を通して、私達にとっての「国外宣教」とはどのようなものなのか、2つのポイントにしぼって考えてゆきます。それは、「出て行く」ことと「弟子を作る」ことです。

国外宣教の第一のポイント。それは、「出て行く」ことです。「国の人々」という言葉、元々は「国」「人種」「人」を表す言葉です。よって神様は、私達一人一人に、すべての国に、すべての人種に、すべての人々に「行け」と言われます。でも私達は、すべての国、人種、人々の所に行くことはできません。だから、私達は分担して、すべての国に、すべての人種に、すべての人々に「出て行き」ます。神様は、私達一人一人に、行くべき場所を示し備えておられます。

国外宣教の第2のポイント。それでは、すべての国の人々の所へ行った後、私達は何をなしてゆくのか？

それは、「イエス様の弟子を造る」、ということです。19節と20節前半に4つの弟子たちが行なうべき行動が書かれています。その4つとは「行くこと」「弟子とすること」「バプテスマを授けること」「教えること」です。その文の作りから、弟子たちがなすべきことはまず「行くこと」、そして人々を「弟子とすること」が判ります。そして、「弟子とすること」とは具体的に「バプテスマを授けること」と「教えること」ということです。

宣教は「バプテスマを授ける」つまり「伝道」だけでも成長しないし、「教会教育」だけでも成長しません。この2つが上手くかみ合うことにより神の宣教は成長してゆきます。私達はこれからも、「伝道」そして「教育」を国外宣教の基として進めなければなりません。

この世界には、まだまだ、イエス様を知らない人々が沢山います。彼らは、真の救い、真の平和を知りません。それらの人々に、この教会は何をすることができるのか？それは、祈ること、そして、宣教師を押し出すことです。ただの人間にすぎない宣教師を教会は押し出し、祈り、支えてください。国外宣教には、皆様の祈り、支えが何よりも必要です。

神様は、まだ見ぬ世界の人々をも愛し、救おうとしておられます。私たち、これからは国外宣教のために祈り、宣教師を送り支えてゆく。そのような古河教会でありましょう。